

Special Interview

上野 真

MAKOTO
UENO

波乱に満ちた生涯を送ったとされるベートーヴェン。楽聖と呼ばれた彼が命を削って書いたとされる32曲のピアノ・ソナタを全10回でお届けします。第3回目には「仕事はピアノ、趣味もピアノ」と語るほど、ピアノを愛する上野 真が登場します。ピアノ、ベートーヴェン、本公演の聴きどころについて熱くお話をいただきました。

♪ピアノの魅力

祖母と父親がオルガニストの家庭に育ち、1年ほど先にピアノを習い始めていた兄の影響を受けて、4歳からピアノを始めました。弾き始めて、今年で45年目になりますね。ピアノは総合的な楽器で、ひとりで全部できるところが魅力だと思います。指揮者でもあり、オーケストラの奏者でもあり、優れた作品が多く、内面的な側面と外向的な側面の両方を表現できる楽器だと思うので、奥が深いと感じています。

♪ベートーヴェンについて

今、ベートーヴェンがすごく必要とされているのではないのかな、と思うんですよね。古典的な時代からロマン派への端境期を生き、両方の時代を生きた人。現代はさまざまな問題を抱え、若い世代の方々にとってもこれからの時代は大変なことがたくさんあると思います。音楽はそれぞれの感じ方で自由に捉えたら良いと思いますが、そのような危機感を感じる時代のなかで、ベートーヴェンの音楽にはとても強いポジティブな力、エネルギーがあります。例えば、ショパンの音楽等には希薄に感じられる「困難ななかでも生き続けていけ!」というメッセージ性が強く、それは彼のどの音楽を聴いても込められていると感じます。

彼は絶対的な美を追い求めた人ですが、内面は実は形にならないようなドロドロとした複雑な人間の情念のようなものも強く持っていたと思うんです。難しい人生を歩んだ人だからこそ、ただ美しいだけではない、そのような部分が私たちに感動的な言葉(音楽)で語りかけてくるのだと思います。

♪聴きどころ

初期・中期・後期からそれぞれ選んだ作品を演奏します。同一人物が書いた作品でも、20代・30代・晩年に書いた作品は必然的に違ってきますよね。古典的な作品のなかに独自性を生み出そうとした7番では、リズムのおもしろさを楽しんでほしい。ワーグナーはベートーヴェンのことを「リズムの作曲家」と賞賛したほどなんです。14番「月光」は、情緒的かつドラマティックな部分が凝縮されています。28番はピアニストの皆が口をそろえているほど非常に難しい。音楽性とテクニックの限界に挑戦する曲ですね。27番は28番とひとつのユニットとして考えられ、「月光」と橋渡しする意味で決めました。また、7番、14番、28番と7の倍数でお届けするプログラムにも数字遊びがあって気に入っています。それぞれまったく違う世界を持つ4曲を楽しんでいただきたいです。

♪クラシック初心者も上級者も楽しみかたは人それぞれ

もちろん予備知識があれば、より理解も深まると思いますが、ベートーヴェンは「だれにでもわかるように」を大事にしていたと思うんです。なかには複雑な部分も存在すると思いますが、予備知識がなくても、直感的にその凄さがわかるはず。だから、難しいと構えるのではなく、お客様それぞれの味わい方で楽しんでほしい。優れた演奏であれば、たとえクラシックの演奏会が初めての人でも、ベートーヴェンの音楽は自然に語りかけます。そのような演奏を目指したいと思います。

上野 真

Profile

16歳で単身渡米し、アメリカ・カーティス音楽院に留学。ジュネーブ国際コンクール第3位、ショパンコンクール名誉ディプロマ、リヒテルコンクール(モスクワ)第2位など受賞多数。現在は京都を拠点に演奏活動だけでなく、後世の育成にも力を入れて国内外問わず活動している。京都市立芸術大学准教授。



ベートーヴェン ピアノ・ソナタ・ツィクルス～俺のベートーヴェン～

第3回 上野 真



[曲目] ピアノ・ソナタ第7番、第14番「月光」、第27番、第28番

9月13日(土) 15:00開演 [中ホール]

一般3,000円 青少年(25歳未満)1,500円 シアターメイツ750円*